

rom



STYLE
DAYS

試
読
版

フロム・スタイルデイズ

トーキョーNOVAスタイルテーマ
1on1シナリオ集

SONE / DONKEY HEAD QUARTERS

本書について

本書は、『トーキョーN◎VA THE AXLERATION』（鈴吹太郎／F. E. A. R. 著、(株) KADOKAWA 刊）のシナリオ集です。プレイするには同書およびその各種サプリメントが必要です。

本書のシナリオはトーキョーN◎VAシナリオ企画『スタイルデイズ』の一貫として製作されました。本書では、『カブキ』『カゼ』『???』をテーマとする3本（2023年10月時点では2本、最後の1本は後日更新されます）を掲載しています（無料試読版は『カブキ』シナリオのみです）

『スタイルデイズ』とは、トーキョーN◎VA好きの有志による、シナリオ製作企画です。「プレイヤー1人でプレイできる」「各スタイルをテーマとする」22本のシナリオを、みんなで作って遊んで楽しもう！が企画のコンセプトとなります。本書掲載シナリオをプレイして楽しんだなら、ぜひ他のシナリオも遊んでみてください。そして22本コンプリートを目指してみてください。

企画のWEBサイトはこちらです。

<https://donkeyhq.wixsite.com/styledays>

CONTENTS

- ・シナリオ1／テーマスタイル：カブキ
ROLLIN' ROLLIN' 3
- ・シナリオ2／テーマスタイル：カゼ
Ms ジャラピィのツーリング 23
- ・シナリオ3／テーマスタイル：???
??? ??

使用画像について
本シナリオの画像は、
SONE が画像生成 AI :
nijijourney および
canva.com を用いて製作
した。

シナリオ1:Rollin' Rollin'

シナリオデータ

- ・テーマスタイル：カブキ
- ・プレイ時間：1～2時間
- ・使用サプリメント：『TNX』ルールブックのみでプレイ可能。

プレアクト（プレイヤー情報）

■アクトトレーラー

ストリートのとあるライブハウス、あるバンドのライブ直前。
新曲の仕込みもバッチリ、客の入りも上々。
メジャーレーベルのスカウトも来るという。
今日のライブは、バンドの運命を決めるものとなるだろう。
だが、肝心のバンドメンバーのひとりが来ない。
アイツは何をやっているんだ？
ライブ開始まで、あと1時間！

トーキョーNOVA THE AXLERATION

ロ　ー　リ　ン　　ロ　ー　リ　ン

Rollin' Rollin'

転がる石ころのように、運命が回り始めた。

■キャスト作成

ハンドアウトに則り、キャストを作成すること。

経験点や使用サプリメントの使用に制限はない。なお、いわゆる「必要な防御系神業数」みたいなものはない。好きにやってよい。

ハンドアウト

推奨スタイル：カブキ　クイックスタート：[ロックスター（専用）](#)

コネ：ミック・ザ・フル※　スーツ：クラブ

キミは友人のミック・ザ・フルとともにロックバンドを組んでいる※。
ミックは女好きでギャンブル中毒のどうしようもないクズだが、テクは一流だ。そんなミックが、バンドにとって大事なライブ直前に失踪した。

キミはミックを探すために、ライブハウスを飛び出した！

PS：ミックとともにライブを成功させる

※ミック・ザ・フル
スタイル：カブキ◎
20歳の男性。ボーカルとギターの才能は一流、ルックスもイケメンだが、女好きでギャンブル中毒の社会不適合者。その生活ぶりにより、ストリートの各方面から恨みを買っている。実家は軌道人（ハイランダー）で、厳しい家の教育方針に反発して出奔した。音楽への情熱、モテたいという願望、自己承認欲求の赴くままに生きる。

※ロックバンド
キャストとミックが組んでいるバンドがどんなバンドかは自由に決めてよい。特に思いつかなければ、下記の設定を採用するとよい。
・バンド名は「ローリングスター」
・キャストのパートは自由。
・ミックのパートは「ボーカルあるいはギター」（キャストが担当しない方、あるいは両方）
・キャストとミック以外のメンバーは自由に設定してよい。

プレアクト（ルーラー情報）

■ストーリー

『カブキ』は友人のミック・ザ・フルととともにバンド活動をしている。バンドは順調に実績を上げ、次のライブにはメジャーレーベルからスカウトが来ることになった。だがその大事なライブの直前に、ミックが失踪した。連絡も取れない。ミックは性格に問題はあるが、バンドには欠かせないメンバーだ。ライブ開始前に、探してライブハウスに連れてこなければ。

『カブキ』は、ミックを探してストリートを奔走する。ミックが恨みを買っている連中（邪悪な元カノなど）に接触し、その行方を追う『カブキ』。だがミックは、想像もつかないトラブルに巻き込まれていた。

このアクトは、ミックの抱え込んだトラブルを解決し、ライブハウスに戻ってライブをすることで終了する。

■ランダムギミック

このアクトでは、ミックの抱えたトラブルの内容は、ランダムに決定される。そのため、アクト開始時点では、ミックのトラブルの内容はR Lにすらわからない。そのため、このシナリオは複数回遊ぶこともできる。毎回ミックのトラブルが変化するため、新鮮さと、ミックの救いようのないダメさを味わえるだろう。

●モチーフ

このシナリオは、以下の映画作品などに多大な影響を受けている。そのものではないが、作品の目指す方向性は一致している、はずだ。もちろん、未見でもまったく問題なくこのシナリオを遊ぶことができる。

・『ビルとテッドの大冒険』シリーズ

ビルとテッド、ふたりのロック少年コンビが、常軌を逸した大冒険を繰り広げる（常軌を逸しているといか言いようがない）映画シリーズ。主演のひとりなんと若き日のキアヌ・リーブス。1作目・2作目は80年代の作品だが、3作目が2020年代になって作られた。なんで？ 本シナリオのクライマックスはだいたいコレ。

・『スコット・ピルグリムVS邪悪な元カレ軍団』

バンド少年のスコット・ピルグリムが、一目惚れした少女とつき合うために、彼女の邪悪な元カレたちと戦う映画（マジでそんな話だ）ミックの邪悪な元カノたちの参考になるかもしれない。

オープニングフェイズ

■セッティング

後述のカードリストから「ミックの行方カード（6枚）」「クライマックスカード（3枚）」のデッキを用意*すること。

●シーン1：ライブ開始1時間前

◆解説

ライブ直前のライブハウス。本番を控えた『カブキ』のバンドのメンバー、ミックが来ない。適当なタイミングで、ミックと連絡をとるための〈コネ：ミック〉の判定を1回行なうこと。目標値は無限大（つまり絶対に失敗する。手札を1回交換する、ぐらいいい感じの感覚でよい）その後、『カブキ』が探して連れ戻すことになる。

◆描写

ストリートのライブハウスの楽屋。『カブキ』のバンドは、ライブ開始1時間前*にして、緊張感に包まれていた。

▼セリフ：メンバーA

「くそっ、ミックのヤツはいつ来るんだ」

「リハーサルをスッポかすのはまだいい……あ、いや、よくないな。まあ前にもあったし、その時は何とかだった。ただ今回は連絡も取れない」

「新曲だって用意した。もうお客さんも入ってる。それに今日は、レーベルのスカウトも来る。バンドの将来のかかった大事なライブだってことは、わかってるだろうに」

▼セリフ：メンバーB

「おい『カブキ』、何か知らないか？（知らない）そうか……」

「このままじゃライブが台無しだ。ミックはクズだが、テクは一流だ。アイツなしじゃ客のハートを掴めない」

「『カブキ』、この中でミックと一番付き合いがあるのはお前だ。ヤツを探して、連れて来てくれ。どうせ女のところにでもシケこんでるんだろう」

「お前たちが戻ってくるまで、なんとか時間を稼いでおく。頼んだぜ！」

◆結末

『カブキ』がミックを探すためにライブハウスを飛び出したら、シーンを終了する。リサーチフェイズへ移行する。

※デッキを用意

オンラインセッション用であれば、ココフォリア用のセッションルームを同梱したので、それを使用するだけでよい。

オフラインで使用する場合は、必要部分をコピーして切って使え。

※ライブ1時間前

このシナリオでは、厳密に経過時間を管理することはない。普通にクリアすれば、開演ギリギリに間に合うことになるし、できなければ間に合わなかったことになる。「これ明らかに1時間じゃムリだよな」とか細かいことを気にする必要は一切ない。自由に設定してよい。

リサーチフェイズ

■イベント

●シーン2：転がる石ころ

タイミング：リサーチフェイズ最初のシーン、および解説参照

◆解説

『カブキ』がミックを探して、各方面に連絡をとるシーン。このシーンは2回発生する。2回目の発生条件は後述される。

以下の項目についての情報収集の判定を行なうことができる。

・ミックの行方

〈コネ：ミック〉〈社会：企業、メディア、ストリート〉目標値10

判定の成否に関わらず、「ミックの行方カード」を1枚引き、内容を確認する。

判定に失敗した場合、情報は手に入るが、その過程で消耗する。山札を1枚引き、[カードの数字]点の精神ダメージを受ける。もし戦闘不能ダメージを受けた場合、疲労やストレスにより時間内に搜索を終わらせることができなかったことになる。アクトは終了する。何らかの神業が必要となる。

◆描写

『カブキ』はストリートを走りながら、各方面に連絡をとる。もしミックがトラブルに巻き込まれているなら、何らかの情報があるはずだ。

▼セリフ：情報筋

「ミックがいなくなった？ ははあ、何かトラブルに巻き込まれたな。あいつは色々と恨まれてるからな」

(このシーンは2回目)「なに、またか！ ちょっと待て、詳しく調べる」

◆結末

判定を行ない、行方カードを引いて内容を確認したら、シーンを終了する。以降、カードに記載されたアドレスへ向かうことで、シーン(シーン3A~3E)が発生する。

●シーン3A：教会

タイミング：教会へ向かった

◆解説

教会へ向かい、ミックと令嬢の結婚式を阻止するシーン。ミックを救出するには、ふたつの方法がある。

- ・神父や招待客に変装して近づく
〈隠密〉目標値13の判定を行なう。
- ・警備を力づくで突破する
〈射撃〉〈白兵〉目標値18の判定を行なう。

判定の成否に関わらず、ミックの解放には成功する。

もし判定に失敗した場合、警備のクグツたちの攻撃を受ける。山札を1枚引き、[カードの数字]+5点の肉体ダメージを受ける。もし戦闘不能ダメージを受けた場合、解放されたミックは再びつかまり、アクトは終了する。何らかの神業が必要となる。

◆描写

教会では、華やかな結婚式が行われていた。可憐で美しい花嫁。朗らかに笑う参列者たち。どこから見ても幸せそうな結婚式だ。ただ一点、新郎ことミックが、椅子に縛り付けられている点を除けば。さて、どうやってミックを助ける？ 企業の令嬢の結婚式だけあって、警備は厳重だ。

▼セリフ：ミック

「うわ～ん、結婚したくないよ～！ はなせ、この●●●(※罵倒表現)！」
(助けた)「おお、『カブキ』！ 助かったぜ！」

▼セリフ：令嬢

「まあ、なんて下品でブザマでかわいい方。そんなところも愛おしいですね。これからゆっくり教育して差し上げますわ」
(助けた)「わたくしとミック様の仲を引き裂くなんて、許せません！」
「わたくしは諦めませんわよ～！」

◆結末①：行方カード1枚目

ミックを解放した。だがその時、突如謎の武装集団が乱入！ クグツたちと乱戦となる。その大混乱の中、『カブキ』はミックを見失ってしまう。次のシーンはふたたび「シーン2：転がる石ころ」となる。

◆結末②：行方カード2枚目

ミックを解放した。だが諦めきれない令嬢が、配下のクグツたちをけしかけける。大混乱の中で、『カブキ』はミックを見失ってしまう。次のシーンは「シーン4：衝撃」となる。

●シーン3B：ヤクザ事務所

タイミング：ヤクザ事務所へ向かった

◆解説

ヤクザ事務所へ向かい、組長によるミックの殺害を阻止するシーン。ミックを救出するには、ふたつの方法がある。

- ・詫びを入れて、別の“イイ女”を紹介する
〈交渉〉〈コネ：女性キャラ〉目標値15の判定を行なう。
- ・力づくで奪い返す
〈射撃〉〈白兵〉目標値18の判定を行なう。

判定の成否に関わらず、ミックの解放には成功する。

もし判定に失敗した場合、解放までの過程でヤクザたちにボコボコにされる。山札を1枚引き、[カードの数字] + 5点の肉体ダメージを受ける。もし戦闘不能ダメージを受けた場合、意識を失ってライブに間に合わず、アクトは終了する。何らかの神業が必要となる。

◆描写

ヤクザの事務所にやってきた。縛られたミックが床に転がされ、組員たちから殴る蹴るの暴行を受けている。『カブキ』が事務所に飛び込むと、ヤクザたちはいっせいに銃を向けてくる。さて、どうやってミックを助ける？

▼セリフ：ミック

「助けて～、何でもしますウ～！ 靴をなめろと言われればなめますウ～、どうか命だけは～！ ペペロペロペロ～」

(助けた)「おお、『カブキ』！ 助かったぜ！」

▼セリフ：ヤクザの組長

「ガハハ！ 俺の女を取った罰だ。できるだけ苦しめて殺せ！」

「何だァ、てめエ……コイツの仲間か？ 邪魔しようってんなら……同じ目にあってもらおうぞ」

(〈交渉〉した)「なに……別の“イイ女”だと……詳しく聞かせろ！」

◆結末①：行方カード1枚目

ミックを解放した。だがその時、突如謎の武装集団が乱入！ ヤクザたちと乱戦となる。その大混乱の中、『カブキ』はミックを見失ってしまう。次のシーンはふたたび「シーン2：転がる石ころ」となる。

◆結末②：行方カード2枚目

ミックを解放した。だが『カブキ』が一瞬だけ目を離した間に、ミックを見失ってしまう。次のシーンは「シーン4：衝撃」となる。

●シーン3C：留置場

タイミング：留置場へ向かった

◆解説

留置場へ向かい、ミックを解放するシーン。ミックを救出するには、ふたつの方法がある。

- ・見張りに賄賂を渡して逃がす
〈信用〉〈社会：警察〉目標値15の判定を行なう。
- ・力づくで奪い返す
〈射撃〉〈白兵〉目標値18の判定を行なう。

判定の成否に関わらず、ミックの解放には成功する。

もし判定に失敗した場合、解放までの過程で武装警官たちにボコボコにされる。山札を1枚引き、[カードの数字]+5点の肉体ダメージを受ける。もし戦闘不能ダメージを受けた場合、意識を失ってライブに間に合わず、アクトは終了する。何らかの神業が必要となる。

◆描写

SSSの特別留置場。こっそり忍び込んだ『カブキ』が見たものは、拘束されたミックを、セクシーな女署長が鞭で打っている光景だった。SM趣味の風俗店で“そういうプレイ”をしているようにしか見えない。

▼セリフ：ミック

「痛い、痛いよ～！ お前なんか嫌いだ～、この●●●（※侮蔑表現）！」
（助けた）「おお、『カブキ』！ 助かったぜ！」

▼セリフ：セクシーなSSS女署長

「ああ、ミック……私だけを愛するまで、永遠に保釈はないぞ？ さあ、愛するとお言い……」（鞭でしばく）

「強情なやつだ。そんなところも好きだな……ゆっくり考えるがいい。おい、しっかり見張っているよ」（見張りの警官に任せて、退室する）

（助けた）「ミックが逃げただと？ くそっ、全員減給だ！」

◆結末①：行方カード1枚目

ミックを解放した。だがその時、突如謎の武装集団が乱入！ SSSの武装警官と乱戦となる。その大混乱の中、『カブキ』はミックを見失ってしまう。次のシーンはふたたび「シーン2：転がる石ころ」となる。

◆結末②：行方カード2枚目

ミックを解放した。だが『カブキ』が一瞬だけ目を離した間に、ミックを見失ってしまう。次のシーンは「シーン4：衝撃」となる。

●シーン3D：地下カジノ

タイミング：地下カジノへ向かった

◆解説

地下カジノへ向かい、ミックの処刑を阻止するシーン。ミックを救出するには、ふたつの方法がある。

- ・ミックの身柄を賭けたギャンブル勝負を挑む
〈心理〉〈芸術：ギャンブル〉目標値15の判定を行なう。
- ・カづくで奪い返す
〈射撃〉〈白兵〉目標値18の判定を行なう。

判定の成否に関わらず、ミックの解放には成功する。

もし判定に失敗した場合、解放までの過程でマフィアたちにボコボコにされる。山札を1枚引き、[カードの数字]+5点の肉体ダメージを受ける。もし戦闘不能ダメージを受けた場合、意識を失ってライブに間に合わず、アクトは終了する。何らかの神業が必要となる。

◆描写

開店前の地下カジノ。縛られたミックが床に転がされ、マフィア組織の構成員たちから暴行を受けている。『カブキ』が店内に飛び込むと、マフィアたちはいっせいに銃を向けてくる。さて、どうやってミックを助ける？

▼セリフ：ミック

「か、金ならないぞ！ そうだ、お、おれのサインやるよ！ おれはこれからビッグになるからよォ～、ひと財産になるぜエ～！」

(助けた)「おお、『カブキ』！ 助かったぜ！」

▼セリフ：マフィアの構成員

「お前の踏み倒した借金、全部耳を揃えて返してもらおうか……払えないなら一生、奴隷としてこき使ってやる」

(賭けを挑んだ)「面白いな。じゃあ、お前自身を賭けてもらおう。負けたらコイツ同様、一生奴隷だ」

(助けた)「フン……おいミック、お友達に感謝するんだな」

◆結末①：行方カード1枚目

ミックを解放した。だがその時、突如謎の武装集団が乱入！ マフィアと乱戦となる。その大混乱の中、『カブキ』はミックを見失ってしまう。次のシーンはふたたび「シーン2：転がる石ころ」となる。

◆結末②：行方カード2枚目

ミックを解放した。だが『カブキ』が一瞬だけ目を離した間に、ミックを見失ってしまう。次のシーンは「シーン4：衝撃」となる。

●シーン3 E：ハイウェイ

タイミング：ハイウェイへ向かった

◆解説

ハイウェイへ向かい、ミックの空港への護送を阻止するシーン。ヴィークルで護送されるミックを救出するには、ふたつの方法がある。

- ・ヴィークルで追いつき、無理やり停止させる
〈操縦〉目標値13の判定を行なう（ヴィークルが必要）
- ・生身で護送ヴィークルに取りつき、停止させる
〈運動〉目標値18の判定を行なう。

判定の成否に関わらず、ミックの解放には成功する。

もし判定に失敗した場合、解放までの過程で転倒や衝撃のダメージを受ける。山札を1枚引き、[カードの数字] + 5点の肉体ダメージを受ける。もし戦闘不能ダメージを受けた場合、意識を失ってライブに間に合わず、アクトは終了する。何らかの神業が必要となる。

◆描写

空港のハイウェイを飛ばす護送ヴィークル。その車内で、拘束されたミックが駄々をこねていた。同乗する厳格なミックの母親は、そんな息子をしかりつける。そこに、『カブキ』がヴィークルを阻止すべく現れる！

▼セリフ：ミック

「降ろせ、クソババア～！ おれはこっちで『カブキ』たちと、楽しく音楽やるんだ～！ そして女にモテまくるんだ～！ おれは帰らないぞ～！」
(助けた)「おお、『カブキ』！ 助かったぜ！」

▼セリフ：ミックの母親

「悪い仲間にあたがらかされたようですね。見るに堪えません。軌道に戻ったら、再教育を受けて、身も心も立派なハイランダーになるのです」
(助けた)「あなたたちのバンドに、どれほどの価値があるというのです。聞くに堪えない地上のゴミみたいなものでしょう」
(ミックが必要だ)「理解できませんが……もういいです。好きになさい」

◆結末①：行方カード1枚目

ミックを解放した。だがその時、突如謎の武装集団が乱入！ 護衛たちと乱戦となる。その大混乱の中、『カブキ』はミックを見失ってしまう。次のシーンはふたたび「シーン2：転がる石ころ」となる。

◆結末②：行方カード2枚目

ミックを解放した。だが『カブキ』が一瞬だけ目を離した間に、ミックの姿は忽然と消えている。次のシーンは「シーン4：衝撃」となる。

●シーン3 F：邪神の祭壇

タイミング：邪神の祭壇へ向かった

◆解説

邪神の祭壇へ向かい、ミックを生け贄とする儀式を阻止するシーン。ミックを救出するには、ふたつの方法がある。

- ・ 対抗する音楽で儀式を台無しにする
〈芸術：(音楽関係)〉目標値13の判定を行なう。
- ・ 力づくで奪い返す
〈射撃〉〈白兵〉目標値18の判定を行なう。

判定の成否に関わらず、ミックの解放には成功する。

もし判定に失敗した場合、解放までの過程で邪教の信徒たちにボコボコにされる。山札を1枚引き、[カードの数字]+5点の肉体ダメージを受ける。もし戦闘不能ダメージを受けた場合、意識を失ってライブに間に合わず、アクトは終了する。何らかの神業が必要となる。

◆描写

地下にある邪神の祭壇。そこでは邪教集団による儀式が行われていた。祭壇の上には指導者である巫女と、頭部にヘッドギアをつけられたミックがいた。巫女が命令するとヘッドギアに電撃が走り、ミックは苦し気に命じられた曲を演奏する(あるいは歌う)。どうやら巫女の力で、強制的に音楽を奏でさせられているようだ。ミックが音楽を奏でるたび、邪悪なオーラが祭壇にみなぎっていく。

▼セリフ：ミック

「やめろォ～！ おれは誰かに命令されるのは大嫌いなんだァ～！」
(助けた)「おお、『カブキ』！ 助かったぜ！」

▼セリフ：邪教の巫女(ミックの元カノ)

「さあミツきゅん(※ミックのこと)、あなたの曲で邪神さまを降臨させるのです。この穢れた世界を滅ぼしましょう。そしてそして私とミツきゅんは、新世界のアダムとイブになるの……(うっとり)」
(助けた)「ああっ、儀式が……よくも私とミツきゅんの新世界を！」

◆結末①：行方カード1枚目

ミックを解放した。だがその時、突如謎の武装集団が乱入！ 信徒たちと乱戦となる。その大混乱の中、『カブキ』はミックを見失ってしまう。次のシーンはふたたび「シーン2：転がる石ころ」となる。

◆結末②：行方カード2枚目

ミックを解放し、信徒たちから逃げる。その大混乱の中で、ミックの姿は忽然と消えていた。次のシーンは「シーン4：衝撃」となる。

●シーン4：衝撃

タイミング：シーン3 A～Fを2シーン行なった

◆解説

『カブキ』がミックを探して、各方面に連絡をとるシーン。以下の項目についての情報収集の判定を行なうことができる。

・ミックの行方②

〈コネ：ミック〉〈社会：企業、メディア、ストリート〉目標値13

判定の成否に関わらず、「クライマックスカード」を1枚引き、内容を確認する。

もし判定に失敗した場合、情報は手に入るが、その過程で消耗する。山札を1枚引き、[カードの数字]点の精神ダメージ+5を受ける。もし戦闘不能ダメージを受けた場合、疲労やストレスにより時間内に搜索を終わらせることができなかつたことになる。アクトは終了する。何らかの神業が必要となる。

◆描写

『カブキ』はストリートを走りながら、各方面に連絡をとる。もう時間がない。急がなければ。

▼セリフ：情報筋

「ミックが消えた？ ふむ、どうやら今度のは少し違うようだな……」

◆結末

判定を行ない、行方カードを引いて内容を確認したら、シーンを終了する。以降、カードに記載されたアドレスへ向かうことで、シーン（シーン5 A～5 C）が発生する。

●シーン5 A：天國

タイミング：天國のもとへ向かった

◆解説

ストリートの闇医者、天國に相談するシーン。

天國によれば、ミックは未来人に誘拐されたとわかる。天國のコールドスリープ装置を使えば、未来へミックを追跡できる。

◆描写

ストリートで天國のトレーラー（兼ラボ）を発見した。さっそく天國に、ミックの消滅した状況と、未来の雑誌について相談する。

▼セリフ：天國

「なるほど、ミックは未来人に誘拐されたのじゃ。この音楽雑誌はあまりにも出来過ぎておる。おそらく書いてあることはすべて真実なのじゃろう」

「要するに、未来の熱狂的ファンが、ミックをタイムマシンでさらったのじゃろう。ま、人間のやることは現代も未来もそんなに変わらんということじゃな」

「まだタイムマシンはないが、ここに完成したばかりのコールドスリープ装置がある。これに入って眠りにつけば、未来までミックを追うことは可能じゃ」

(時間ないんだけど)「大丈夫、帰りは未来のタイムマシンで帰ってくればよい。ライブ開始時間ぴったりに帰ればよいじゃろうて」

◆結末

コールドスリープ装置を使用すると、クライマックスフェイズへ移行する。シーンは「シーン6 A：はるかな未来」となる。

●シーン5 B：カーロス

タイミング：カーロスのもとへ向かった

◆解説

ストリートの変人、“火星人”ことカーロスに相談するシーン。

カーロスによれば、ミックは異星人に誘拐されたとわかる。異星人の目的と、宇宙船の所在地が判明する。

◆描写

ストリートのバーで飲んでいるカーロスを発見。さっそくミックの消滅した状況と、異星人の宇宙船について相談する。

▼セリフ：カーロス

「ははあ、そいつは異星人の宇宙船だな。間違いない」

「おれの情報だと、今地球に来ているのは……えーと。くじら座タウ星系から来たリトルグレイタイプの連中だな。地球来訪の目的は、地球人の生態と、音楽文化の研究らしい」

「急いだ方がよさそうだ。要するにミュージシャンを解剖したくて来たってことだからな」

(時間ないんだけど)「宇宙船はライブハウスの裏山に隠されている。ミックを助けて、すぐにライブに出られるさ」

◆結末

裏山の宇宙船に向かうと、クライマックスフェイズへ移行する。シーンは「シーン6 B：裏山の宇宙船」となる。

●シーン5C：マリー

タイミング：マリーのもとへ向かった

◆解説

オカルト関係に詳しい“ビッグ・マム”マリーに相談するシーン。

マリーによれば、ミックは手違いで死神に殺され、地獄に落ちたという。

マリーの協力を得て、ミックを追って地獄へ行くことになる。

◆描写

マリーの呪術品店、マリーズ・エンチャントを訪れた。さっそく店主のマリーに、ミックの死んだ状況と、死神のノートについて相談する。

▼セリフ：マリー

「ミックの野郎が死んだって？ 自業自得だね……え、死神のノート？
ちょっと見せてごらん」

「このノートは本物だね。その日に殺す人間のリストが書いてある。ただこの死神はうっかりさんだね。今日の予定の欄には、ミック・ザ・フル
じゃなくてニック・ザ・クールって書いてある。ミックは人違いで死んだ
んだ。マヌケだねえ」

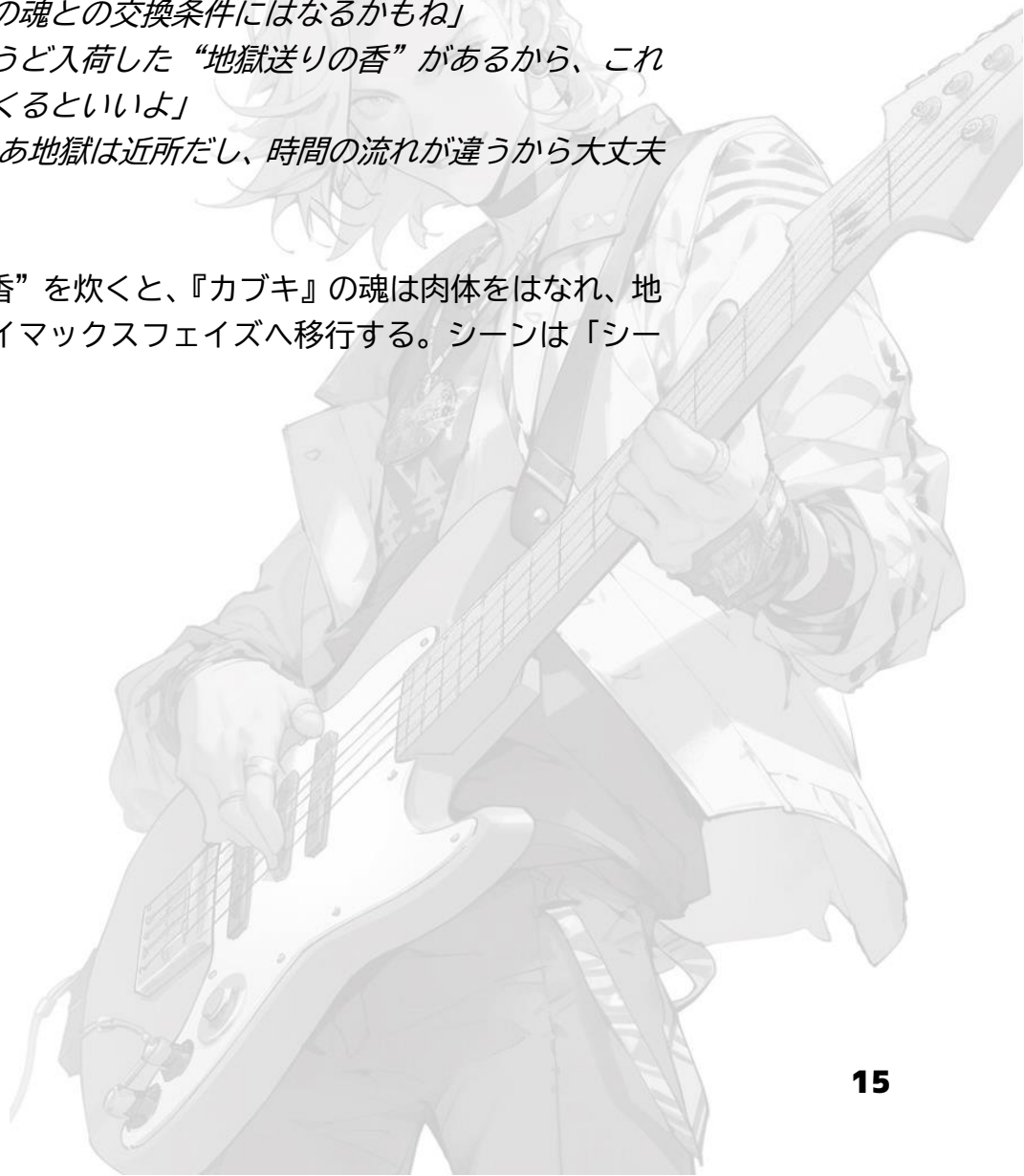
「死神から魂を取り戻せれば、ミックは生き返るよ。ノートの紛失は問題
になるだろうし、ミックの魂との交換条件にはなるかもね」

「地獄に行くなら、ちょうど入荷した“地獄送りの香”があるから、これ
で魂だけで地獄に行ってくるといいよ」

(時間ないんだけど)「まあ地獄は近所だし、時間の流れが違うから大丈夫
じゃないかね」

◆結末

マリーが“地獄送りの香”を炊くと、『カブキ』の魂は肉体をはなれ、地
獄へと飛んでいく。クライマックスフェイズへ移行する。シーンは「シー
ン6C：地獄」となる。



■カードリスト：ミックの行方（A～F）

A：教会

ミックはさらわれた。さらったのは、さる企業のクグツたちだ。ミックにフラれたが諦めきれなかった元カノのひとりは、メガ・コーポのエグゼクスの令嬢だった。彼女は親の力で、ミックを強引に連れ去さったのだ。令嬢はこれから、拘束したミックと教会で結婚式を挙げようとしている。

アドレス：教会を得る。

B：ヤクザ事務所

ミックはさらわれた。さらったのは、河渡連合系ヤクザの構成員たちだ。その組長は、お気に入りの情婦をミックに寝取られ、怒り心頭だった。これからさらったミックを、拷問にかけて殺すつもりだ。ヤクザの事務所に突入し、ミックを奪い返すしかない。

アドレス：ヤクザ事務所を得る。

C：留置場

ミックはさらわれた。さらったのは、SSSの武装警官たちだ。ミックは彼らの上司である女署長とつき合っていたが、最近フツた。激怒した署長は、公私混同で部隊を動かし、ミックを拉致。留置所にブチ込み、自分を再び愛するまで監禁しようとしている。

アドレス：留置場を得る。

D：地下カジノ

ミックはさらわれた。さらったのは、カーライル系マフィア組織の構成員たちだ。ミックは彼らの地下カジノで遊んだ際、大金をスツたあげくに負けを踏み倒して逃げた。自業自得にもほどがある。ともあれ彼らは、マフィアのメンツにかけて、ミックを始末するだろう。

アドレス：地下カジノを得る。

E：ハイウェイ

ミックはさらわれた。さらったのは、さる軌道の名家のエージェントたちだ。実はミックは、その家の跡取り息子だった。出奔していた息子連れ戻すため、ミックの母親が手を回したのだ。現在、ミックは母親とともに（無理やり）軌道行きシャトルに乗るべく、空港へと向かっている。

アドレス：ハイウェイを得る。

F：邪教の祭壇

ミックはさらわれた。さらったのは、世界滅亡をもくろむ邪教集団の信徒たちだ。なんでもミックの歌を捧げることで、邪神を復活させ世界を滅亡させることができるらしい。この教団の指導者はミックの元カノだ。儀式は地下にある祭壇で行なわれている。

アドレス：邪教の祭壇を得る。

■カードリスト：クライマックス（A～C）

A：バック・トゥ・ザ・フューチャー

目撃者によれば、ミックは突然光に包まれて消失した。消失地点には、未来の日付けの音楽雑誌が残されていた。その雑誌によれば、どうやらミックと『カブキ』のバンドは、未来において音楽で戦争を終わらせ世界をひとつにした伝説的存在となるらしい。冗談のような話だ。こういう話を相談するなら、ストリートのマッドサイエンティスト・天國がふさわしい。

アドレス：天國を得る。

B：未知との遭遇

目撃者によれば、街中を歩いていたミックは、上空に現れた異星人の宇宙船に吸い込まれて消えた。どうやら異星人に誘拐されたようだ。こういう話なら、ストリートの変人として名高い“火星人”カーロスに聞くのが手っ取り早い。

アドレス：カーロスを得る。

C：死神ノート

ミックが死体で発見された。目撃者によれば、死神らしき人物の鎌に切られたらしいが、外傷はなく死因はまったくの不明。死神（らしき人物）はすぐに立ち去ったが、この際ミックの死体のそばに“死神ノート”と書かれた黒いノートを落としていった。このノートを調べれば、何かわかるかもしれない。こういう話は“ビッグ・ママ”マリーが詳しい。

アドレス：マリーを得る。

クライマックスフェイズ

●シーン6 A：はるかな未来

◆解説

コールドスリープで未来へ向かった場合のクライマックス。ミックを発見するが、彼は未来世界での待遇にすっかり満足し、現代への帰還を拒む。

ミックを説得する（あるいは力づくで連れ帰る）カット進行となる。ミックのARは0であり、リアクション以外の判定を行なわない。

ミックに対しては精神攻撃の「説得」（ルールブック P146）が有効となる。ミックは1回説得されるか、戦闘不能ダメージを受けると《天罰》で治癒する。その時点でカット進行は終了となる。

このカット進行の間、『カブキ』はカット開始時に、どこからか降ってくる稲妻に撃たれる。目標値10のドッジを行なう。失敗すると[山札1枚]+5点の肉体ダメージを受ける。これはタイムパラドックスによる影響だ。

ミック・ザ・フル（カット進行用データ）

◆スタイル

カブキ=カブキ◎●、ハイランダー

◆神業

チャイ（防御に使用）、チャイ（防御に使用）、天罰（解説参照）

◆能力値/制御値

【理性】2/11 【感情】8/15 【生命】5/9 【外界】7/13

◆技能

〈芸術：ギター演奏〉3 ♠ ♣ ♥ ◇ 〈芸術：歌唱〉3 ♠ ♣ ♥ ◇

〈自我〉2 ♠ ♣ ♥ ◇ 〈回避〉2 ♠ ♣ ♥ ◇

◆描写①

コールドスリープ装置から目覚めた『カブキ』。そこで見たものは、ぬるっとした陶器のような見たこともない建物の並ぶ都市と、ピタピタのボディースーツを着た見目美しい人々だった。そして周囲に流れている音楽は、今日のライブで発表するはずだったバンドの新曲。間違いない、ここは未来のトーキョーN◎VAだ！ そんな都市の中心部にある、巨大な玉座に鎮座するミック。傍らには陶醉した表情のボディースーツの美女たちを侍らせている。すっかり未来を満喫しているようだ。

▼セリフ：ミック

「よう『カブキ』！ お前も未来に来たのか。最高だなここは！」

（戻ってライブしよう）「うるさいな、ここにいれば人類の英雄としてモテモテなんだぜ。戻る必要なんてないだろう？」

※ボディースーツの美女

ミックの傍でひときわ恍惚とした表情を浮かべているのが、ミックをさらった熱狂的ファンだ。

彼女はミックを連れて来たことで、タイムパラドックスで世界が滅んでもどうでもいいと思っている。彼女を説得することは不可能だ。

「連れ戻したければ、カづくでやってみるんだな！ わはは！」
(倒した)「ハハっ、なかなかやるな。やっぱりお前とバンドやる方がおもしろいな。戻ることにするぜ！」

▼セリフ：美女のひとり（ミックをさらったファン）

「ミック様、ずっとここにいきましょう。地球が滅亡するまで……」

「あ、『カブキ』様は他担だからそんなに」

▼セリフ：心配なのでついてきた天國

(稲妻が降る)「こ、これはタイムパラドックス！」

「ミックがライブに出なければ、バンドは栄達せず、この未来も発生しない。するとそもそも、ミックがここに連れ去られることもなくなり……つまり矛盾が生じる。宇宙は矛盾を解消するために、矛盾の周囲の時空を破壊する。恐らくは地球ごと滅んでしまうじゃろう！」

「『カブキ』よ！ ミックを心変わりさせるか、カづくで言うことを利かせるんじゃ。地球を救うために！」

◆描写②（カット進行終了）

決着がついたとき、時空が鳴動した。無数の稲妻が建物を破壊していく。瓦礫が降り注ぐ中を、未来人たちは逃げまどっている。『カブキ』たちは旧時代の公衆電話ボックス風タイムマシン※に乗り込む。

▼セリフ：心配なのでついてきた天國

「タイムパラドックスが激しくなってきた。急ぐのじゃ！」

▼セリフ：ミック

「なあ、もう何日かゆっくりしない？ どうせタイムマシンで戻るんなら……あ、ダメですか」

「ああ畜生、名残惜しいなあもう！（タイムマシンを操作する）」

◆結末

タイムマシンは光の柱を化し、その光の中に入っていた『カブキ』たちは消えていく。エンディングフェイズへ。

●シーン6 B：裏山の宇宙船

◆解説

宇宙船へ向かった場合のクライマックス。ミックを救うには、異星人たちの前で演奏し、データを取らせなければならない。

カット進行を行なう。カット開始時に、『カブキ』は目標値10の〈自我〉判定を行なう。失敗すると〔山札1枚〕+5点の精神ダメージを受ける。これは精神データを取得する特殊な装置のためだ。

メジャーアクションで〈芸術〉判定を行なう。達成値は累積し、合計45に達すると、勝利条件を満たす。また、ふさわしい神業を1回使用すれば、即座に勝利条件を満たせる。異星人は満足し、ミックを解放する。

※公衆電話ボックス風タイムマシン

このシナリオの元ネタのひとつ『ビルとテッドの大冒険』のオマージュだ。なぜ電話ボックス？ていうか電話ボックスって何？と思われる場合は、なんかテキストにそれっぽいものに変更せよ。

◆描写①

『カブキ』はライブハウス裏山に巧妙に隠された宇宙船に突入した。

ミックは透明なカプセル状の装置に閉じ込められている。その周囲には、端末らしきものを持ったリトルグレイタイプの異星人たち。敵意はないようだが、解放するつもりもないようだ。異星人は、『カブキ』にも、もうひとつの同じ装置に入れと促す。

▼セリフ：ミック

「『カブキ』、助けてくれー！ こいつらおれに音楽をやれって言ってるみたいなんだけど」

（やるぞ）「くそっ、マジかよ。ええい、ライブのリハーサルがわりだ。やってやるぜ！」

▼セリフ：心配なのでついてきたカーロス

「『カブキ』、こいつらは演奏時の生態データが欲しいそうだ。一曲やってやれば、納得して解放するかもだぜ」

◆描写②（カット進行終了）

『カブキ』とミックの曲が終わった。データを取っていたカプセル状の装置に電流が走り、ショートし、破壊される。『カブキ』たちの音楽のもつ力が、異星人の測定機器を破壊したのだ。見れば、リトルグレイたちも大盛り上がりだ。感動の涙すら流している。

▼セリフ：カーロス

「こいつら感動してるぜ。これが音楽という文化の力が、ってな」

「お前たちのバンドなら、世界を、宇宙をひとつにできるかもしれないな」

▼セリフ：ミック

「人体実験しなきゃ、いいやつらだったな。さあ、帰ろうぜ。おれたちのライブが待っているんだろう？」

◆結末

ライブ開始時間だ。『カブキ』とミックは宇宙船を飛び出し、ライブハウスに駆け込む。エンディングフェイズへ。

●シーン6C：地獄

◆解説

地獄へ向かった場合のクライマックス。ノートを落とした死神に、ミックの魂との取引を持ちかけると、不祥事をもみ消すべく襲いかかってくる。

カット進行を行なう。カット開始時に、『カブキ』は目標値10の〈自我〉判定を行なう。失敗すると〔山札1枚〕+5点の精神ダメージを受ける。これは死神の攻撃だ（魂なので精神にダメージを受けるのだ）

勝利条件は、初期位置から合計6段階移動すること。ムーブアクションに加え、メジャーアクションで〈運動〉〈操縦〉を行なうことで、追加で〔達

成値の10の位]段階移動できる。勝利条件を満たすと、死神の上役である死神大王のもとに到達し、タレ込むことができる。また、ふさわしい神業を1回使用すれば、即座に勝利条件を満たせる。

◆描写①

魂となった『カブキ』がたどりついたのは、鬼が亡者を苛む恐ろしい世界だった。間違いない、ここは地獄だ！

そんな地獄の片隅で、死神が頬杖をついて溜息を漏らしている。傍らにはミック（の魂）もいる。どういやらこいつが、ノートを落とした死神だ。

▼セリフ：ミック

「おお『カブキ』！ お前も地獄に来たのか。死んじゃったときは落ち込んだけど、お前がいれば心強いぜ。こっちでもバンドやろうぜ！ 地獄も住んでみればいいところかもしれないしな」

「えっ、生き返れるのオ？ はっ、こんな辛気臭いところにいられるか。さっさと帰ろうぜ！」

▼セリフ：死神

「困りました、まさかノートを落としてしまうなんて……」
（これのことか？）「それは私のノート！ えっ、人違い？ おお……」
「はっ！ このことを知っているのはあなたがただけ。上役の死神大王さまに告げ口される前に始末すれば、お咎めナシ！」
（襲いかかる）「さあ、死になさい！ そしてノートを返すのです！」

▼セリフ：心配なので魂だけになってついてきたマリー

「『カブキ』、死神を倒すことはできないよ。なんとか逃げて、上役の死神大王にタレ込むんだ！」

◆描写②（カット進行終了）

死神の追撃を振り切って、死神大王のオフィスに駆け込んだ。

▼セリフ：死神大王

「私が死神大王です。うちの死神がとんだ不始末を。ミックさんの魂はもちろん戻します。死神は減俸3カ月ね」
「あとこれ、つまらないものですが……地獄のシーズンフリーパスです。どうか今回のことはご内密に」

▼セリフ：ミック

「もう地獄はこりごりだぜ。さあ、帰ろうぜ。おれたちのライブが待っているんだらう？」

◆結末

『カブキ』たちの魂は肉体に戻っていく。ミックも死体安置所で目覚める。それを見た職員のニック・ザ・クールがショックで心臓発作を起こして死亡する。すべては死神のノート通りだ。エンディングフェイズへ。

エンディングフェイズ

●シーン7：Rollin' Star, Rollin'!

◆解説

連れ戻したミックとともに、ライブをするシーン。このシーンで何らかの神業を1回使用すると、この日のライブは伝説となり、永らく語り継がれることになる。

◆描写

満員のライブハウス。客の中をかきわけて、『カブキ』とミックがステージに上がる。

▼セリフ：バンドのメンバーたち

「ヒヤヒヤさせやがって！ もう場はあつたまってるぜ！」

▼セリフ：ミック

「ヒーローは遅れてくるもんさ」

「よし、一発かましてやろうぜ。しょっぱなから新曲で行こう、『カブキ』！」

◆結末

『カブキ』のパフォーマンスとともに、ライブハウスが熱狂に包まれる。アクトを終了する。

奥付

フロム・スタイルデイズ

トーキョーN◎VAスタイルテーマ1on1シナリオ集（試読版）

製作者：SONE (@sone_99) / DONKEY HEAD QUARTERS

発行日：2023.10.13

最終更新：2023.10.13

本作は、「鈴吹太郎 / F. E. A. R.」及び「株式会社 KADOKAWA」が権利を有する『トーキョーN◎VA THE AXLERATION』の二次創作物です。(C) 鈴吹太郎 / F. E. A. R.